Nagoya University Library

名大中央
皇
911.2
R

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
1 / 49

Nagoya University Library

62461

911.2
R

神宮皇學館文庫

目録

一今日まあひとくらつ　昌琢　奥山寺

二一杉深くとまつ　同　文隆　奥山

三一夏ちかしとも　同　花坊　奥山

四一こてる夜もとらぬ　色

五一なくなくこゝろを　嘉和　伯耆

六一七月の花なれ　昌琢

七一花よあひて　寿長　豊

八一山ものつ　紅葉　昌琢

九一秋風やまとに　同

十一都もまた又ぬ　同

十一松の声　秋の　同

名古屋大学図書
和 62461

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
2 / 49

元和元年九月九日
於奥山寺

何木

今日かゝりて咲やまた菊の花山　昌琢
霧晴るゝもしる庭の松露　應昌
遠ざかる月に色ある風吹て　来之
重ねて鳴きも田ゐて　昌俊
草の露より深き雲か枕　業隆
船泊めとむる磯の松けは　玄仲
行きもやらずなる沖の浪雲
三川のみつゝきて河原に之鳴

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
4 / 49

行てハ奥ゆかしきハ寺の門　先
岩ねの松のこなたふみちる　玄
紛れ袖にもさそふ村雨　慈
鈴帝人の出るをまつ　紹
里しつ鄙の都まつくらん　琢
つゆもれふしてしる秋　昌
書けは程なるぬに訳しらず　明
すゝきの秋や言ふはれて　え
声のつゆにかりねの床にて　佐
夜のまもまたぬ一夜何　琢
こゝろの外にかれし露　作
月もかくれてそく葉青　明
花のゆる道にまよふ帰　紀
よるも月の声の隠　先

落葉にハ清しかなしき秋のこ　紹
すゝむの風の雨そく空　佐
高き縁小なる雲まつらん　琢
ひとこともあへぬ窓の灯　慈
ちるへくてゝんの字にて　え
かなりて何をさる思さ　紀
花て世にかへるハ表れ　昌
はなれんのいまくさ　作
いさゝてわ里の果おもしろ　明
つゆしの昔に聞の暮　琢
いはまきんの庭をひま　先
余所一声の文をさそ　玄
別まつ後れ秋の月　佐
あすにとゝ神の香　紀

Nagoya University Library

秋のもみぢ葉やつゆ霜
小倉かうちとよもすなり 定
那のいせ海の白波かうち 陽
水とりのまこもかくれに 仙
五月雨に昔ながらの香そ 意
梅の田つくるあかつき 作
風かよふ所乃ちかの麓の 七
あるをまこに松かくれ 品
守人を後の宮の林し 仙
月をたかるまに月雲乃袖 仙
大海つ舟ふくとよ秋の末 定
秋出の武庫の海 陽
風ふきの尾とのの巻よりあて 意
文ちりうちそ春の松えて

春のくれ雲の小塩乃秋の 陽
潮もあまの釣舟星 仙
波ふく八橋乃月清く 仙
天津雲のうへ乃ぬ 仙
新年月ふる雪のうち 品
かけそ春の風ふく 定
くそ宮乃ふる雪 作
彩色牧原よりあさかの 意
俗人の宮乃陽をうちく 陽
あけくれ春の雪の袖 七
久かたの空ふけ月 的
もみぢ葉のつく井の 仙
山陰くれ春の 仙
んちりぬ春の松風 陽

暁まて猿やなくらんねまのや　佐
月またてはやうつらふかたら　的
白ひとしとや花の字経　琢
若くは法のことのは書て　俔
一ちやうきかは法花の部を立　意
雨乃名残雨ほれ山　仙
鐘のいとも伊駒の峯ゝ　先
なかいのゝきかきそむかし　陳

昌琢十三　西雲七
応昌九　玄的九
末云三　良昌七
昌俔十　寛佐九
業仙九　賢世六
玄陳九　附佐一

於文殊院

懐旧　昌琢

打添て鳥や若枝下紅葉
露をむすひし梅つ袖　応昌
見合戸を暁起の月おもて　玄的
かまたうぬけくく山かけ村　末云
林ふく風の雲の落の花　業仙
ちらはけ芦にかれし川浪　昌俔
風はいく岸の村井かくやら　玄陳
田面の東ゆく夕の帰さ　玄仍

里人やまつ若菜をも摘らん　宮高
さらぬ外山ハくらき松陰　寛佐
雲のゐる風かはれハ雲も消はて　良昌
うつり見えけるかすかなる色　宗之
月ぞうき末の草村分まて　以信
かりねをさそふ小野の秋風　珎
よそにきく法も人をや頼むらん　正辰
新しくいろいろさらす白妙の衣　納
小坂なる現の涙の名すくく　玄
田中の道ハやすかりをすぐさき　仙
名をきてハ野の梅の花とゝし　以
捨てこしまゝめ草をさくる　陳
葉つもれる山ハ遠く見ゆ　元
霞の衣さえたれ　(寿)けさる

名残をもやふけ行嵐かな　信
中々の夜の月のこゝろ清き月のかげ　昌
野路をさしたる里のなごり雲　之
澤辺をわたり行橋の一筋　意
名残あるまてハ浦の潮なみ　珎
うけもさらにつゆも荻の上　玄
足曳の山を越え行旅路く　納
今日そ都も衣かへし人　以
所定めぬといふもさゝ身の果　仙
月にもさしなれなる古き　元
柾の葉ゝ秋のよ人の塚くさる　陳
いつもの中もの思ひきは人　珎
旅衣たゝ三年にかへる鐘も　寿
飛鳥川ものいはぬ雲　納

霧はれぬ海の岩屋にあれはてて　之
礒やむかしの舟つなぐ袖　佐
立よりて宿かる松の下涼み　益
野中の道はしばしくさ夕暮　昌
つもる人さへ音絶えて時雨し　琢
おりにふれつる言の葉の末　紹
聞わびつかよふ小舟ぞ立おくれ　玄
思ふ事あるに行年も黄昏　紹
守る鏡の塵の中にも打はらひ　元
おもひ山路の里の夕霜　琢
地のやくる月の夜の人　佐
藪し柳の木の間にみゆる隠　保
絶えて花も心の袖もの　納
妙に京ぞ住小松蝶ちるらん　等

霧の色や野辺白雲の雲むし　琢
見えわかぬ森の木陰に道絶えて　先
芦雪の庵のままに清く　紹
吉野の山もはらふいつく　玄
むかし見し菊の末の露の命　昌
残るすまひは都の家の　元
秋更けて月の色はや菊の庵　紹
おとろへし身は月のみはしらず　益
松風のたよりをきてもおとろへん　高
枕に袖のかはくつゆし　納
夜よりあけて小笹の霜さえ　保
桃花の隙ふるさと原　佐
満汐よりひきその海の松　玄
一夜のさくらたのしさの屋　琢

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
10 / 49

なをさそふ秋よふかき草の原　先
農夫や露わけ行道にて　紀
峰もたゞ霞わたれる静けさに　云
現になる夢より秋の風　琢
きてひとりおもかへりけれ　意
月見むと在所の家もなけ(?)の　的
荒磯そふ旅ねも消えて枕して　陳
とをさまさせてもてくいたく吉野　俔

昌琢十三　良昌六
意昌八　玄陳九
玄的九　西雲七
未云九　宗三七
宗紀九　宗先七
昌俔九　時佐一

於花亭

何木　昌琢

長きよもむせぶ宿の梢の水
霧わけられ奥の山川　宗先
秋たつや露のひとつ行きて　未云
岩根をつたふ神さびし嶺　意昌
紅葉も桜木かしは苑の月　昌俔
とはさらば川し帰りて行き　宗紀
村雨や絶えなけりなく時わかん　玄陳
風の声みなれ宿のきく　玄的

山かひに草のはらにも高き滝の声　舟
まよふ人のあとさへ見えぬ秋の杜　宗佐
踏分けし清水につたふ苔の色　昌
落葉ぞふかきけはしき隠　仍
月もなき男鹿の音に寝て　之
野辺の露とをしもおもはぬ身の春　琢
七さとも深き浦にの雲の　良宮
小田の流はさくさくと　云
敷ありし尾花も菱も猶しげ　定
かよひ路もなれぬ岩の下道　仍
晴つきし夜も雲に袖やぬる　的
里遠み雲にくもれる法師　除
ねをこめ霜さへさらん花の花　仍
萩しのぶまで家も…の　舟

風の音年も暮にて　琢
都のかた住も捨ら　良
うつりゆく人の…　云
芭蕉の葉…枝やうつろへ　之
浪わけて…垣…　仍
人事後くれて松の戸　昌
…夕…さひし山陰　除
晴ても…あるまじ　宅
風やく梢の…露　舟
…東の木草　的
月も出田…　仍
…さけ…里　琢
…人　良
兼…人　云

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
12 / 49

岩ほに風のたつも文の中 先
おもひきりても飛ぶ鳥の声 紀
一筋に直きは行く水遠き 恵
絶えとも流れく松吹く岸の 陸
浅茅の露も咽ひつゝ小松原 琢
独りの床に思ひかけすとし 兼
夜すがら来る雁の夜寒 玄
猶覚えぬきは秋のあはれさ 仍
涼しさは枕の月に霧さえて 元
あはれなる人に言ひこそなけれ 良
憂かりける世の事しも絶え果てし 的
あはたゝし人花より風の音 琢
寒けき文殊の春風や夜 紀
かはらぬ雨の名こそ出でける 恵
清見の色をもうつす海菅子 仍
道のべにけふ見も弄の陰 玄
せきとめし涙の末は小笹原 琢
独りつまつく猪名の付すさき 的
たのしくと行く見越えの雲のかかり 珍
むかひの空に霧の立つらん 紀
行末は嵐の末の秋はれ 兼
秋さしくくる雲の川つゝ 元
柳見え来るたつ月の夜 恵
色かすむ山の松が陰さき 先
夕霞まかは懸けの袖はし 昌
分け来すとまる物思ふらん 琢
わかれくにしてあはぬ人心 紀
恋のみちしるへの跡はまよふき 陸

Nagoya University Library

やつまとう姿もとめて云
たうもはたうつ今こゝ道舟
陸地もゝ世界治定の事し歌
物らしいさまたて任意仕
結ひくくこゝ知りて花の小葉恒的
毒の立枝も不せ成迫仮
雪風吹きたる重ね竜川て作
紅の世風さしかへうし迫
きるるく我なる源右の法先
月も初の抜つ俗蜜人歌
芦蔭よきう入寄つ上けして
見まこゝたくてもなる法的
祝ふ上ふさてるる天体
きさ田舎の作ぬ世いつ昌

指立て初ち作ふ来て迫
なとたつるさへ乃生てゝ先
芳りもしつて水ふ歌
うみうつふ中云
つゝ社祝のはし別し仮
わうし命も移入より体
ふたまん市ま立意此とて的
きる芳おとすの生のつ仕
神ゝ人作れまり丹発小丹
立りりてつ富ん歌
九うの月も今ゝ文屋ゝ云
鳥まつもおつ立ゝ歌屋て
吹風ゝ小親の白ふ月て作
りさうりば立て筆的

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
14 / 49

Nagoya University Library

日の影や音の羅の隙てん　昌
行くすゑは秋の入れぬる云
笠ぬぎ出し水無瀬の月の夜　孫
四方の海の末々作り初めて　俊
住もまさるこの方の一村雨　定
竹植をけさ来鳴く郭公　俊
はるばると笠ぬぎ出し山の端　定
芦の枕に浮き寝の夢の覚めぬ　俊
昌俊十三　宗尭八　玄陳十　玄的十
未云十　遊昌九　正舟七　宗伝八
昌俊十　正雪七　夏昌七　時伝一

みそぎ川夏の夕べの涼しさは
袖ぬぎ〳〵の夏の夕暮　昌
秋風の涼しさ沈の陰せて　孫
紅葉ぬるさを重ねの木かくれ　東
すゑの露ぬるまねばらん清水　俊
むすびよりの出し秋の表裏　定
名を長し物の山田のこゝろ　昌
かりけりうしも　戒く　無の紫ふ　玄仲

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
15 / 49

Nagoya University Library

敷ちよ初つ枝ゆ春人ぞ花
むしまち村の山ぞ道曽
一筋乃末の川柳ぞ義
花の名ぞ冷しさ夏ぞ春
風のこ初ぞ柳陰ぞ
かつこ山乃秋の淋しさ迫
岩ぞ乃月乃人への宿ぞ東
こうけたこ風ぞ庵ぞ林
旅なをこつまこ紅葉ぞ所
こしら秋ぞこ俺ぞ花納会
別こうぞ俺さ方たり仲
友ぞ誘りぞ宿平寧
偏ぞ乃ぞ花乃陰直
初ぞ山つ冬ぞ久わ

清ぞ初ぞ俺ぞ郭乃迫
陰ぞ山ぞけぞ山ぞ月ぞ次
住俺ぞ家ぞ山ぞ小林
ぞ初ぞ乃ぞ初ぞ世ぞ友孫
ぞ初ぞ人の初ぞ花ぞ会
花ぞ山ぞつぞの沈東
小蓮ぞこぞ花ぞ人平寧
月ぞ林ぞこぞ庵乃ぞ仲
雲ぞ乃ぞ秋乃下ぞ林声ぞ
砌乃ぞ小ぞ松ぞ世ぞ
ぞて花ぞ山ぞ初ぞ次
花ぞ乃花ぞ乃ぞ俺ぞ迫
嘉ぞ雲ぞ乃小ぞ清ぞ平孫
ぞ山ぞ市ぞ花ぞ山ぞ乃ぞ林

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
16 / 49

激浪つゝ岩ほにくたくる白波　東
嵐も吹しきる三吉野の奥　平等
雲まよひ麹まよひて津の国　玄
志らしらとしらむ夜の有明　納言
起ふしも心のとけぬ旅枕　仲
ゆくへもしらぬ恨をそする　琢
中空にたゝよふ雲のゆきあひに　通
不縁とみえて鳥のなくらむ　以
しらしらと湖の霞をかけて　林
小夜ふけ行は遠ざかる舟　東
夕暮の大井の笛や高瀬　琢
あかつきの月を見する　以
川風や夜の衣をさそふらん　納言
岩戸うらこゝろ寒き松の木通　玄

露しけしいかにとかへる雨の名残すれ　ね
月影まつ川ほとりの蛙おもしろし　仲
草村はまさに残る冬にして　平等
うつし置くる小田の末　玄
住みなれし里の池水をとりし　東
古きまたなく雲に立つも　琢
君が代は唐土までも豊かにて　通
難波やいつれ月すみにける　林
見るにも青葉ゆかしき伊勢の山　以
物しとけしき小野原の竹　納言
夏の夜の露も風の寄にし　仲
ことさら人もなし古き　ね
等ゆきも見ぬ草のやまや奥の井　琢
あの川もしらぬかはらしもか　平等

山なりの末葉は風の吹おろし　玄
宿りおもと急行の色や　东
帰行や遠やまのむら鶏　納言
竹の林は寒けをくる　色
思ひさへ世はいとふ隠家に　林
ちり川もいはまに友　琢
行来てもまちあへぬ風遅く　紹
まつ夜つくりて急ぐ鐘　以
睦言しつゝむかしみし色
袂もむなしく行鳥の月　納言
こゝろにうつろふ夜半も秋風　东
陽炎の神さびちうちつゝ　卓
其秋もいふままに花袋　琢
春やてらの宿の園へいり　仲

蓬生は住世のうきさりとも　納言
こゝろあるかたつゝむ旧宿　林
春なれし風やいつら嵐ふく　色
舟よせて入来れ吉備の湊つゝ　紹
晴る日は海士往来見え家も　卓
人かよふ芦の屋はるゝ　东
むかしは稲葉の花ぞ深く　以
暁も照ぬ月はあかつき　琢
詩友は長さいつゝさ　玄
見るといふなし鶏寝の多　色
物こしにかたるそでは　仲
おさなけなきさまいふせつ川　納言
なやましきさんの窓さそ行く　紹
川渡せ虫るへくてゝ　卓

Nagoya University Library

世の越えは霧の日れつるあんを色
ゆしの絵のくもとあるさとの芝　仲
宇治　信濃かく　かるなる義の君京
かるとみの色　こしの深くの色
信富つ　信濃　信和　昌琢
うかひのくらく　酒の詠　次
さの秋は面つ　あんを　平
入日の京の京の春の声く　林

色十二　平宰相十
昌琢十二　玄仲十
三林法京九　庭れの
東十　詠歌　中納言十　内直八
実服十　京八
志信一

為紙巴法眼遠吾

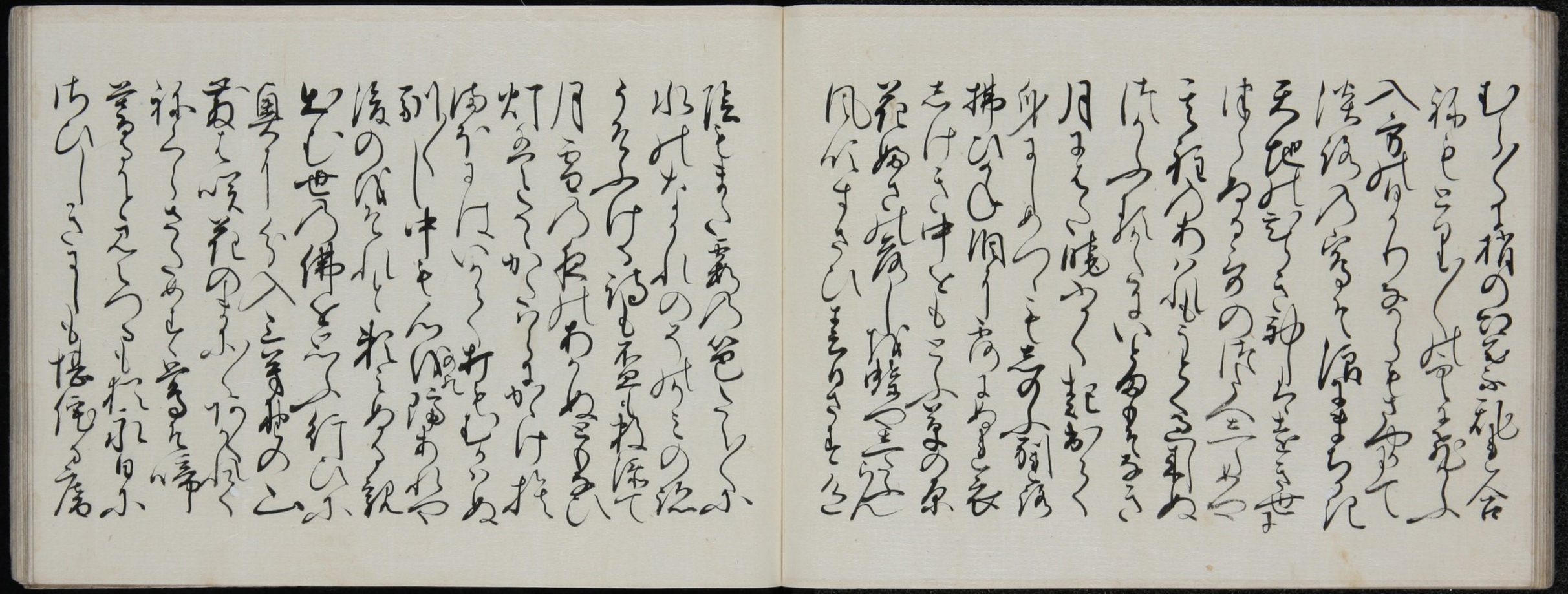
菊

なれ法つくんの様は見ぬ
朝を新宮つくるまる紙
行幸の花は月の新つく
世の面の河こ小男鹿色
多の見て法面香を刈後し
るるるるのひさく
冥の秋は法言宮殿て
家るるくく村の寸忘

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
20 / 49

Nagoya University Library



名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
21 / 49

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
22 / 49

Nagoya University Library

かさなりあわらいつをうん
寺のいりあひも雪のなかく
梢ばかりぞまつ花咲て
かくしつるまでもあらしの音ばかり
吹風も雪をはらひ雪をはらひ
あらしの音ばかり深山の奥
梢迄ぬけ出まつ花咲てん
かくしつるまでも人も今わ雪

暮

長月の花なき菊のうつろふ
笹ゝ蛬の声すさまじ
秋の日の夕風ふきて暮
ぬる所ゝ虫の思ふ事
ゝ所ゝ秋つくけ初ぬん 清
日ゝ夕ゝの秋ゝ山のまを紅葉
晨昏乃庭ゝ雪ゝ積ゝて但正
戸ゝの陰ゝ冬ゝ寒ゝ梅ゝ兵後

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
23 / 49

Nagoya University Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Nagoya University Library

いとうあまたまつりての酔ひ伏後
ゆくへしらずまどいたる所侯
松をうつしてわかれ深山人侯
はるばるとこしかたをかへりみて
月の出潮の満干侯
月の出潮の満干侯
月の出潮の満干侯

Nagoya University Library

雨はれて今を盛りの桜花
ちるなりけりと見てをらん 塚
屋を出て東の方へ行くに
おなじ所にて
月はいまだ出でぬ夜の
月見るとて
月見るとて
月見るとて

Nagoya University Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

昌琢主　但正八
吉次七　弘後七
昌貞十　貞文八
主保十　文永二
以前の　寛保七
寛政六　文門の
　　亜次一

山何

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
27 / 49

Nagoya University Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
29 / 49

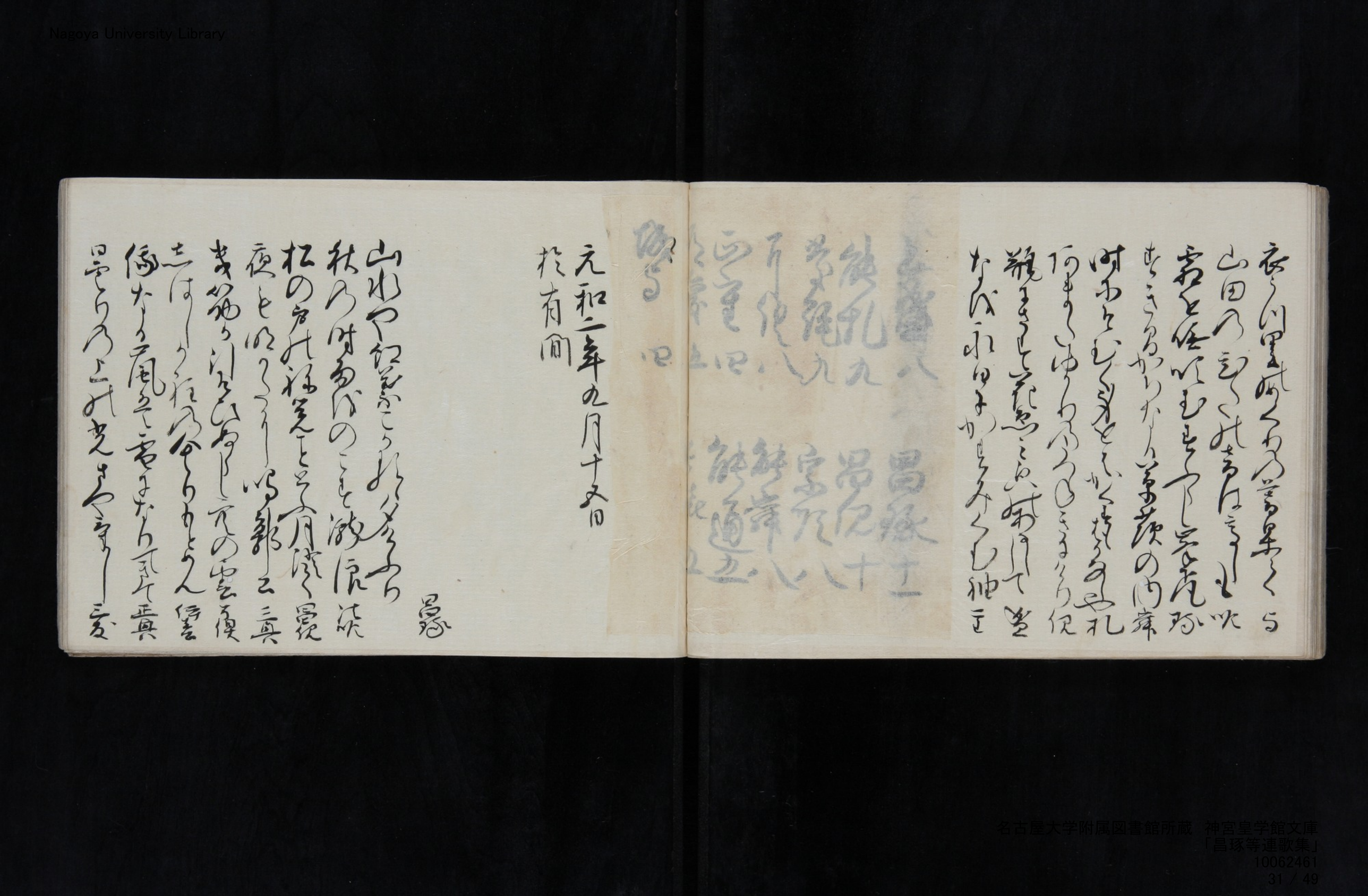
Nagoya University Library

以方ばさを見て神の風れ
ほのぼのとうちはらふ雲の屋根
五百箇の竹の葉ゝしめりし純
友露もみなとなる夜俱
龍のおとの川は雲の底
為て来る色をさ濁り吹
降もとゝ雨とそ心通
蛍を共に世は
雲かくれ月は
月を牧に
来もとれあ
花と共に
あしたも雲の
さまに林も吹

歌をよかこの方の歌
住のつゝみてしら紙
世をあけ濃
根くらし
かりとも行
まゝあ人の下風
生命を
くいも事
星の
求めし
写経
月
世をふる
ちの

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
30 / 49

Nagoya University Library



元和二年九月十七日
於有間

山ゆく紅葉こそ秋の盛なれ
秋の盛の今宵の月
松の戸に秋深しと月清く冴
夜とはいふ三五夜
雲晴れ月さえ渡る
山は冬の雲夜
傾かぬ風そ吉
日吉の月上の光

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
32 / 49

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
33 / 49

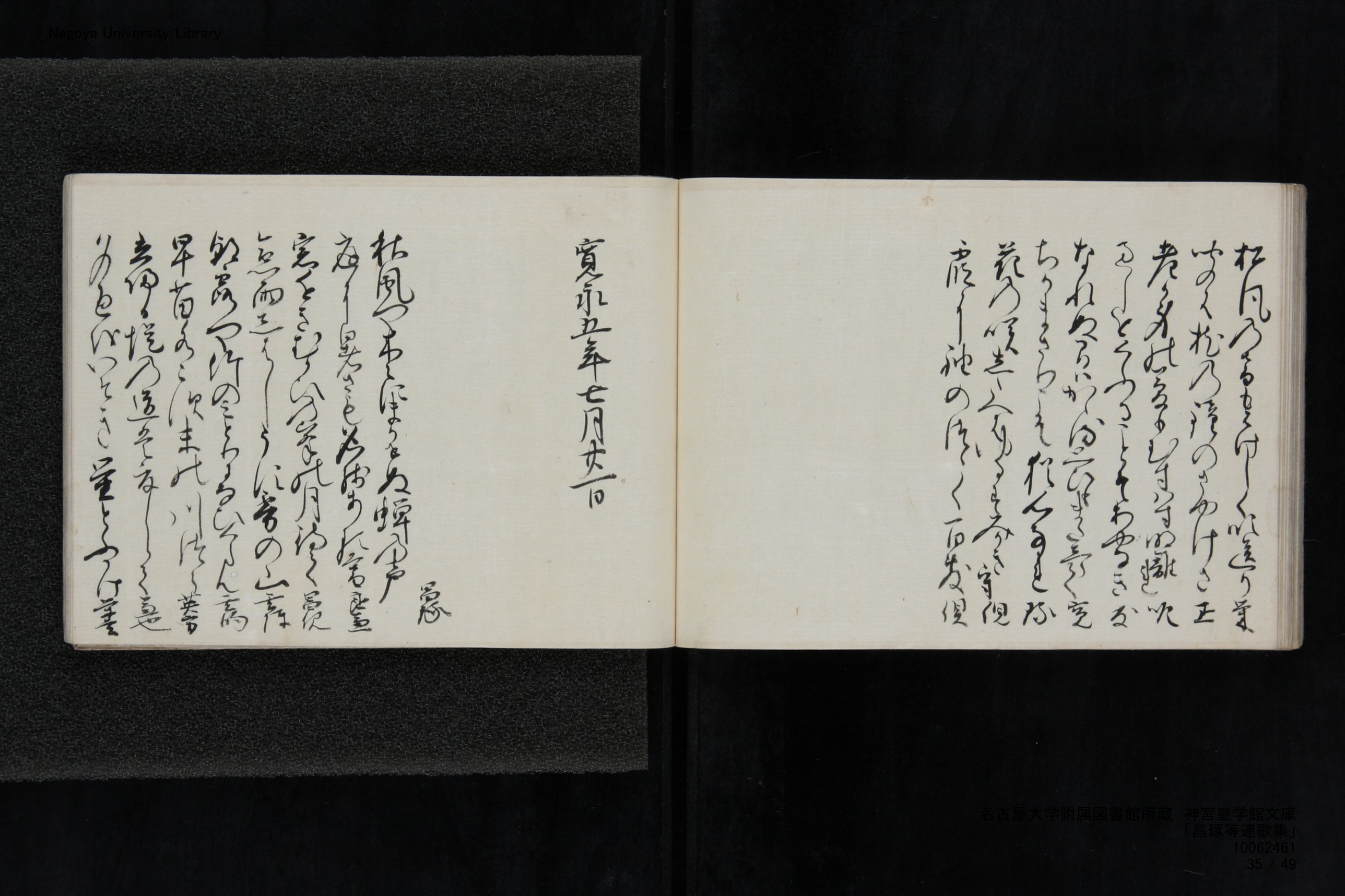
Nagoya University Library

たちの紅葉かな　正
にすまうとさとりすまし　宗俱
川のうすゆつるもみぢの宮　吹
ちりさ清もどいはるその日　仏
拾玉中の芦原ちりて　定
うらうらうらの秋陸の秋　陸
ぬらひて雁のこゑのみ　鄙俱
紅さくはつ　幸まもりの月　定
月つまこの山のたまつるをれん　者
白をすまの草ちるの四季
なるみよ　正
家ゆ入あひの月　哲
岡野の御の別まの家あの秋陸
おのをいて　陸ちなれ者

武乃絵も絶れ今ゆ今さ野ゆ　定
例ゆ月ゆ月村ゆ　正
加ゆのたかゆ稲の稔ゆ　哲
ゆ　行　東方　吹
武元　正
数ゆ又　浪の　正
家ゆ　花の　花陸
ゆ行　陸
ゆ　定
ものゆ月の下仏
ゆ　俱
ゆ　陸
仏ゆ　月乃人　定
ゆ　者
月日乃　海　仏

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
34 / 49

Nagoya University Library



名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
35 / 49

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
36 / 49

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
37 / 49

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
38 / 49

Nagoya University Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Nagoya University Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Nagoya University Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
42 / 49

Nagoya University Library

所望ぬたく文の西也
神もあまくのはれ行い文
あつ[illegible]の[illegible]れ祈まくく塚
なくさまくの声かな家也
吟[illegible]と祈系井菊ふくく夜伏
かりてたく宿をする人堂
走わあ毎つはもくんれ
見弁陸乃ちく大井川養

寛永五年七月九日

昌琢

松乃声秋風ふきの新潟
宮しの蔦もあくく義墓
秋々雨も清い波し寄あ景
出乃言えらく非道の塚さ寄
月まなく道乃言れいるく義絶
海さあるあ行長乃未倉
いく度の神ちく山尾毎
くくくく永々わく絶のけ愛

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
43 / 49

Nagoya University Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Nagoya University Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
46 / 49

Nagoya University Library

神宮皇學館大學
32408
昭和20. 9. 15
書

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
47 / 49

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
48 / 49

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「昌琢等連歌集」
10062461
49／49